

2021/04/08

2021(令和3)年度 前期始業式
奨励

感じる・思う・考える

本日、静岡英和女学院は創立134年目を迎えました。

もう季節は新緑の季節を迎えようとしています。躍動感あふれる季節です。紫外線が最も強い季節ですが、新緑と木漏れ日に包まれると励まされます。

今、私たちはパンデミックで世界は先が見通せない時を過ごしています。だからこそ神様の恵みと導きの下、互いに慰め、励まし合って、ともに前へ進める一年にしたいと願っています。

昨日、入学式がありました。青の中学1年生、赤の高校1年生が晴れて女学院生に加わりました。また今日からオレンジの中学2年生、緑の中学3年生に転入生がおひとりずつ加わりました。どうぞ、宜しくお願いします。また進級された英和生の皆さんも進級おめでとうございます。本年度も、神様に与えられた道を一日一日、大切に共に歩いていきましょう。最後に、後ほど本年度お迎えした新しい先生方をご紹介しますと思います。

突然ですが、皆さんはBTSのテテをご存じですか。これを聞いただけで失神する人もいるかもしれませんが、先生方の中にはテテと聞いて「どこかの動物園で生まれた赤ちゃんにテテという名前がついたの?」「どこかのスイーツ?」と想像する先生もいらっしゃるかもしれません。どちらでもありません。私はあることがきっかけで、今、テテにはまっています。

さて、テテが何かは言いませんが、このように、人間はあることを聞いても感じたり、思ったりすることは全く違います。でも、これが音楽、映画、舞台、ダンスなどのエンターテインメントの世界の話となると、ただ自分の好みや関心の問題だけでなく、その時代や社会の中で考えさせられるものがあります。つまりこのパンデミックの中で芸術、スポーツなど文化の持つ意味です。

このパンデミックでニューヨークやロンドンから始まり世界の劇場、映画館は閉鎖され、ミュージシャンやアーティストは歌い、踊り、演じ、奏でることができなくなりました。彼女たち、彼らの多くは失業し、貧困にある被災者です。しかし同じ被災者でありながら、愛する家族を失い残された人たち、遠く離れた家族の安否を祈る人たち、誹謗中傷、差別を受けても、自ら感染の恐れと戦いながら感染者と向き合う医療従事者の方々へ歌を、演奏を贈りました。

自分の好き嫌い、関心があるなし、自分が「感じる・思う」世界から、共に生きている時代、社会、世界を「考える」ことで隣人への愛が生まれます。

もちろん自分の感じる、思うことも大切にしてください。それと同時に「考える」世界も大切にしましょう。考えるとは誰にとっても大切なこと、必要なことは何かと考え、問い続けることです。この困難な時に感じ、思うことから、これからは考え、ともに前へ進める1年にしましょう。

(しばらく目を閉じて黙想しましょう)

恵み深い主よ、本日、静岡英和女学院は創立134年、2021年度始業式を迎えました。昨日は入学式の祝福に与り、新たにあなたが選ばれた新入生、転入生、先生方を迎えしました。どうか変わらない「愛と奉仕」の精神と実践を通して、成長させて下さい。

今だ、私たちは困難な状況にありますが、どうかあなたの導きの下、一日一日を大切に、自ら学び、共に学び、互いに励まし歩ませて下さい。

主イエス・キリストによってお祈りいたします。アーメン

2021(令和3)年 4月 8日

校長 大橋 邦一